

The AICA logo consists of the letters 'AICA' in a bold, white, sans-serif font, centered within a solid dark red rectangular background.

**AICA**

**第119期 中間報告書**

2018年4月1日～2018年9月30日

*CHEMICAL PRODUCTS*

*CONSTRUCTION & HOUSING MATERIALS*

**アイカ工業株式会社**

証券コード：4206

## 株主の皆様へ

# 「挑戦と創造」の精神のもと、 たゆまぬ成長を実現してまいります。

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社グループ第119期第2四半期連結累計期間（自 2018年4月1日 至 2018年9月30日）の営業の概況をご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間の当社グループを取り巻く経営環境は、日本国内においては、相次ぐ自然災害の経済への影響があったものの、設備投資の増加や企業業績および雇用環境の改善などにより、緩やかな回復基調で推移しました。また、アジア・オセアニア地域の経済は、米中貿易摩擦などの通商問題の動向が与える影響や為替の変動が懸念されたなか、中国は底堅い景気を維持し、インドネシア・タイ・インドなどの地域においては緩やかな回復基調で推移しました。

国内建設市場においては、賃貸住宅の供給過剰感から借家や持家の着工が一服し、住宅着工は減少しました。非住宅関連は、企業の設備投資やインバウンド

効果による工場、オフィス、ホテルの新築・改修需要は増加したものの、医療福祉施設や商業施設は落ち込み、着工面積はほぼ横ばいで推移しました。

このような経営環境の下、当社グループは、中期経営計画「C&C 2000」の方針に基づき、社会的な課題の解決に貢献する商品群の拡充、次世代を担う注力分野の育成、アジア・オセアニア地域における接着剤やメラミン化粧板の販売強化などを推進いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高90,832百万円（前年同期比16.4%増）、営業利益9,670百万円（同4.0%増）、経常利益10,109百万円（同5.4%増）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、西日本豪雨による広島工場浸水被害に関わる一時的な特別損失400百万円を計上し、6,044百万円（同5.5%増）となりました。

なお、配当につきましては、連結配当性向50%を目処としており、当期の中間配当金は1株当たり47円といたしました。

## CONTENTS

株主の皆様へ	1
セグメント別のご案内	3

財務情報	5
連結貸借対照表（要約）	
連結損益計算書（要約）	
連結キャッシュ・フロー計算書（要約）	

企業活動のご案内	7
会社の概要	8
株式の状況	9
株主メモ	10

今後の景気動向につきましては、国内経済は、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあり、緩やかな回復が続くことが期待される一方で、アジア・オセアニア経済については、通商問題の動向が世界経済に与える影響や、海外経済の不確実性、金融資本市場の変動の影響に留意する必要があります。

当社グループは、このような経営環境を十分認識し、経済動向に左右されない収益基盤の強化を図るため、社会的な課題の解決に貢献する商品群の拡充、次世代を担う注力分野として機能材料事業の強化などを推進してまいります。また、海外事業につきましては、新拠点である、化粧板製造子会社「アイカ・ラミネーツ・ベトナム社」、海外建装建材事業の統括会社「アイカ・アジア・ラミネーツ・ホールディング社（タイ）」、ウレタン樹脂などの製造販売会社「エバモア・ケミカル・インダストリー社（台湾）」、接着剤・可塑剤製造販売会社「タイ・ケミカル・コーポレーション社」を有効に機能させ、より一層の拡大を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き一層のご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2018年12月

代表取締役 社長執行役員

小野 勇 治

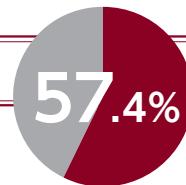


# introduction of each segment セグメント別のご案内

## 化成品セグメント

売上高

52,176百万円



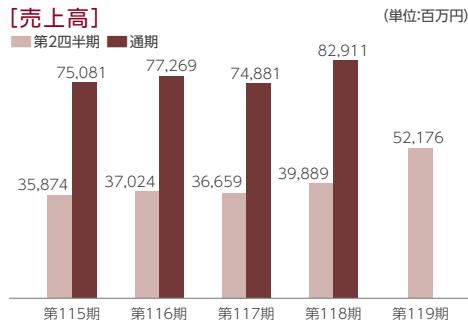
[売上高構成比]

接着剤系商品は、国内においては施工用接着剤や産業用フェノール樹脂が好調に推移しましたが、集成材用接着剤が低迷し、売上が前年を下回りました。一方、海外においてはアジア・オセアニア地域における接着剤・産業用樹脂の需要を取り込むことができたことに加えて、当第2四半期連結会計期間より連結業績に組み入れたタイ・ケミカル・コーポレーション社が寄与し、売上を伸ばすことができました。

建設樹脂系商品は、高耐久塗床材「アイカピュール」が好調に推移したものの、新築住宅向けの外装・内装仕上塗材「ジョリパット」や建築・土木用の補修・補強材が低迷し、前年を下回りました。

非建設分野への取り組みとして注力している機能材料事業につきましては、電子材料市場の低迷によりUV樹脂が前年を下回りましたが、繊維・紙加工用途のアクリル・コンパウンド商品が前年を上回り、また、第1四半期連結会計期間より連結業績に組み入れたエバモア・ケミカル・インダストリー社が寄与し、売上を伸ばすことができました。

このような結果、売上高は52,176百万円（前年同期比30.8%増）となりました。営業利益（配賦不能営業費用控除前）は、原材料価格高騰の影響を受けたことにより、3,641百万円（前年同期比7.9%増）となりました。



塗床材 ジョリエースE ドーデンコーティング工法



外装・内装仕上塗材 ジョリパット  
物件名: 日本青年館・日本スポーツ振興センタービル (ホール階段)  
設計: 株式会社久米設計

## 建装建材セグメント

42.6%

売上高

38,656百万円

[売上高構成比]

メラミン化粧板は、国内においては高い意匠性と指紋などの汚れが目立ちにくい特性をもつ「セルサス」をはじめ、不燃性や耐スクラッチ性、耐薬品性などの機能性を付与した高付加価値品がホテルや商業施設の新築・改修需要を取り込み、売上を伸ばすことができました。また、海外においては、インドネシアやベトナムを中心に売上を伸ばすことができました。

ボード・フィルム類は、加工品を拡充した粘着剤付化粧フィルム「オルティノ」関連商品は好調でしたが、汎用的なポリエステル化粧合板が低調に終わり、前年を下回りました。

メラミン不燃化粧材「セラル」は、工場・倉庫や飲食店の新築・改修需要を獲得することができましたが、医療福祉施設や住宅の着工件数減少の影響を受け前年を下回りました。

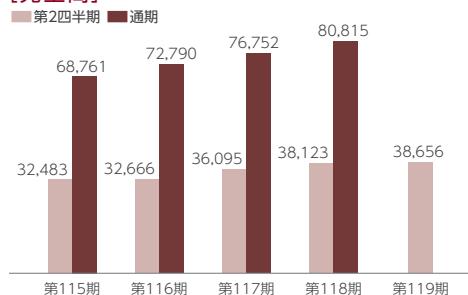
不燃建材は、アクリル樹脂系塗装けい酸カルシウム板「ルナライト・カラー」が工場・倉庫や教育施設の需要を取り込むなど、アイカテック建材株式会社とのシナジー商品を中心に売上を伸ばすことができました。

カウンター・ポストフォーム商品は、バリエーションを拡充した人工大理石「デュポン™コーリアン®」の幼児用手洗いカウンターやそれに付随する収納キャビネットが保育施設の新設需要を取り込み、売上を伸ばすことができました。

建具・インテリア建材は、メラミン化粧板の特性を活かした「メラフュージョンシリーズ」は好調でしたが、その他商品は住宅着工件数減少の影響を受け、前年を下回りました。

このような結果、売上高は38,656百万円（前年同期比1.4%増）、営業利益（配賦不能営業費用控除前）は7,289百万円（前年同期比1.7%増）となりました。

### [売上高]



アジア地域向けメラミン化粧板 アジアコレクション  
物件名: TRUE Branding Shop Siam Paragon (タイ・バンコク)  
設計: Duangrit Bunnag Architect Limited



キッズ洗面セット  
設計: アーククルーズ建築設計事務所

■ 連結貸借対照表(要約)

(単位：百万円)

科目	第119期 第2四半期 2018年9月30日現在	第118期 (前期) 2018年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	126,616	130,200
固定資産	60,771	59,426
有形固定資産	39,146	38,464
無形固定資産	2,964	2,855
投資その他の資産	18,660	18,107
資産合計	187,387	189,626
<b>負債の部</b>		
流動負債	46,049	49,579
固定負債	7,568	7,430
負債合計	53,617	57,010
<b>純資産の部</b>		
株主資本	117,704	114,917
資本金	9,891	9,891
資本剰余金	13,280	13,279
利益剰余金	96,536	93,756
自己株式	△2,004	△2,011
その他の包括利益累計額	6,587	7,828
その他有価証券評価差額金	5,595	5,402
繰延ヘッジ損益	△2	△4
為替換算調整勘定	751	2,187
退職給付に係る調整累計額	243	243
新株予約権	27	36
非支配株主持分	9,450	9,833
純資産合計	133,769	132,616
負債純資産合計	187,387	189,626

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 連結損益計算書(要約)

(単位：百万円)

科目	第119期 第2四半期 2018年4月1日から 2018年9月30日まで	第118期 第2四半期 2017年4月1日から 2017年9月30日まで
売上高	90,832	78,012
売上原価	67,328	55,401
売上総利益	23,504	22,611
販売費及び一般管理費	13,833	13,310
営業利益	9,670	9,300
営業外収益	747	605
営業外費用	308	310
経常利益	10,109	9,595
特別損失	400	—
税金等調整前四半期純利益	9,709	9,595
法人税、住民税及び事業税	2,796	3,073
法人税等調整額	339	191
四半期純利益	6,574	6,330
非支配株主に帰属する 四半期純利益	529	603
親会社株主に帰属する 四半期純利益	6,044	5,726

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## ■ 連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

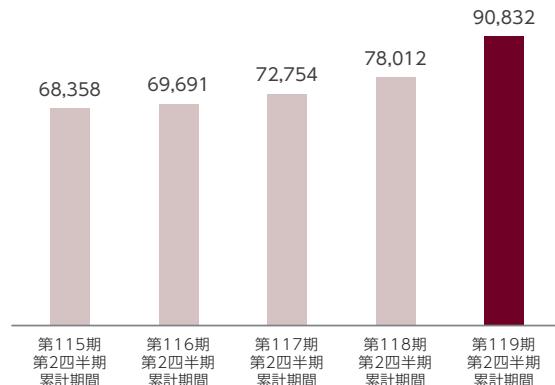
(単位：百万円)

科 目	第119期 第2四半期 2018年4月1日から 2018年9月30日まで	第118期 第2四半期 2017年4月1日から 2017年9月30日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	6,833	7,700
投資活動による キャッシュ・フロー	△4,031	△1,825
財務活動による キャッシュ・フロー	△4,029	△3,267
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△672	△129
現金及び現金同等物の 増減額	△1,899	2,477
現金及び現金同等物の 期首残高	48,896	47,622
現金及び現金同等物の 四半期末残高	46,996	50,099

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

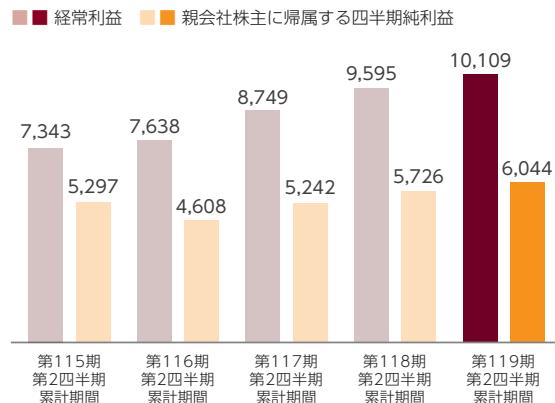
## ■ 売上高

(単位：百万円)



## ■ 経常利益と親会社株主に帰属する四半期純利益

(単位：百万円)



## ■ 配当について(剰余金処分)

当期の中間配当金は、1株当たり47円といたしました。期末配当につきましては、1株当たり56円を予想しております。

## 新技術棟「名古屋R&Dセンター」完成

当社は、2018年10月1日、建装建材事業の研究開発拠点の中核となる「名古屋R&Dセンター」を開設しました。

名古屋R&Dセンターの開設により、2021年3月期に連結売上高2,000億円を目指す中期経営計画の実現に向けて、「市場ニーズに合致した新商品や次世代を支える新規事業の技術開発機能の強化」「新商品の開発・上市スピードの加速」「国内外のグループ間における開発効率化とシナジー効果の最大化」「社会課題解決に貢献するA S (Aica Solution) 商品※の開発など、事業拡大のためのイノベーションを創出」を図るとともに、モノづくりの総合力を高める人材の育成と働き方改革の推進に努めてまいります。

※A S 商品…職人不足問題や環境問題、物流費高騰問題、少子高齢化問題など社会課題の解決に貢献する商品群。省施工型商品や軽量建材、災害時の避難の安全性を高める不燃建材、消臭・高耐久・長寿命建材等を指しています。

### 名古屋R&Dセンター 概要

所在地	愛知県清須市西堀江2288番地
延床面積	約2,200㎡ (技術開発スペースは従来の約7.5倍の面積へ拡張)
稼働開始	2018年10月1日
在籍者数	約40名



名古屋R&Dセンター外観



開所式の様子

## 西日本豪雨による当社広島工場浸水被害および被災地・被災者への支援

2018年6月28日から7月8日の西日本豪雨は、各地に多大な被害をもたらしました。

化成製品 (接着剤、塗り床材等) の生産を行っている当社広島工場の所在する広島県三原市は、7月6日から7日にかけての河川の氾濫により大きな被害を受けました。広島工場も最大1.5mの浸水があり生産の中止を余儀なくされました。当社では直ちに甚目寺工場、福島工場、伊勢崎工場での代替生産を開始するとともに、全社一丸となって広島工場の復旧に取り組みました。復旧作業は、厳しい暑さと乾燥した土砂の砂埃などに困難を極めましたが、7月20日からは一部製品の生産を再開し、9月3日には全面的に生産を再開いたしました。

また、当社は、被災地の方々への救援や被災地の復興に役立てていただくため、三原市に1,000万円を寄付いたしました。



浸水直後の広島工場の様子  
(7月7日撮影)



三原市 天満祥典市長 (右) と  
当社 小野勇治社長



# 会社の概要 (2018年10月1日現在)

## プロフィール

<b>社名</b>	アイカ工業株式会社
<b>本社</b>	名古屋市中村区名駅一丁目1番1号J Pタワー名古屋26階 電話 052(533)3131(代表)
<b>本店所在地</b>	愛知県清須市西堀江 2288 番地
<b>設立</b>	昭和 11 年 10 月 20 日
<b>資本金</b>	98 億 9,170 万円
<b>事業所</b>	
<b>生産拠点</b>	名古屋工場 (愛知県) 甚目寺工場 (愛知県) 福島工場 (福島県) 伊勢崎工場 (群馬県) 広島工場 (広島県) 茨城工場 (茨城県) 丹波工場 (兵庫県)
<b>開発拠点</b>	名古屋 R & D センター (愛知県) 甚目寺第一 R & D センター (愛知県) 甚目寺第二 R & D センター (愛知県) 福島 R & D センター (福島県) 茨城 R & D センター (茨城県) 丹波 R & D センター (兵庫県)
<b>営業拠点</b>	札幌支店 仙台支店 盛岡営業所 東京支社 埼玉支店 横浜支店 千葉支店 北関東支店 宇都宮営業所 新潟営業所 名古屋支店 静岡支店 北陸支店 大阪支店 神戸支店 京都営業所 広島支店 四国支店 福岡支店 鹿児島支店
<b>連結子会社</b>	
<b>会社名</b>	アイカインテリア工業株式会社 (愛知県) アイカハリマ工業株式会社 (兵庫県) 西東京ケミックス株式会社 (東京都) アイカテック建材株式会社 (東京都) アイカインドネシア社 (インドネシア) テクノウッドインドネシア社 (インドネシア) 昆山愛克樹脂有限公司 (中国) 瀋陽愛克浩博化工有限公司 (中国) 愛克樹脂貿易 (上海) 有限公司 (中国) アイカ・ラミネーツ・インドネシア社 (インド) アイカベトナム社 (ベトナム) アイカ・アジア・パシフィック・ホールディング社 (シンガポール) アイカ・ラミネーツ・ベトナム社 (ベトナム) アイカ・アジア・ラミネーツ・ホールディング社 (タイ) エパモア・ケミカル・インダストリー社 (台湾)

## 主要製品

**化成セグメント** 外装・内装仕上塗材、塗り床材、各種接着剤、有機微粒子、他

**建装建材セグメント** メラミン化粧板、化粧合板、室内用ドア、インテリア建材、カウンター、収納扉、不燃化粧材、押出成形セメント板、他

## 取締役・監査役および執行役員

代表取締役 社長執行役員	小野 勇 治
取締役 専務執行役員	百々 聡
取締役 専務執行役員	岩瀬 幸 廣
取締役 常務執行役員	大村 信 幸
取締役 常務執行役員	森 良 二
◎ 取 締 役	小 倉 健 二
◎ 取 締 役	花 村 淑 郁
常 勤 監 査 役	岩 田 照 徳
常 勤 監 査 役	小 瀬 村 久
○ 監 査 役	加 藤 正 和
○ 監 査 役	片 桐 清 志
上 席 執 行 役 員	堀 田 益 之
上 席 執 行 役 員	木 場 健 夫
上 席 執 行 役 員	岩 塚 祐 二
上 席 執 行 役 員	海 老 原 健 治
執 行 役 員	Rein Meijer (レインメイヤー)
執 行 役 員	Chew Teck Liong (チューテクリョン)
執 行 役 員	天 野 利 通
執 行 役 員	乾 功 一 郎
執 行 役 員	加 藤 義 昭
執 行 役 員	石 井 直 美
執 行 役 員	吉 村 利 康
執 行 役 員	西 尾 良 治

(注) ◎印は社外取締役、○印は社外監査役であります。

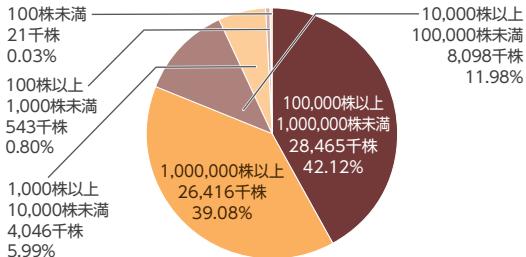
- 1.株式の総数 発行可能株式総数 116,577,000株  
発行済株式の総数 67,590,664株
- 2.株主数 4,980名
- 3.大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,793	8.87
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,135	6.33
アイカ工業取引先持株会社	2,107	3.23
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	1,700	2.60
アイカ工業株式会社保有会	1,531	2.35
BBH FOR MATTHEWS JAPAN FUND	1,400	2.14
住友生命保険相互会社	1,318	2.02
株式会社三菱UFJ銀行	1,300	1.99
大日本印刷株式会社	1,293	1.98
デンカ株式会社	1,229	1.88

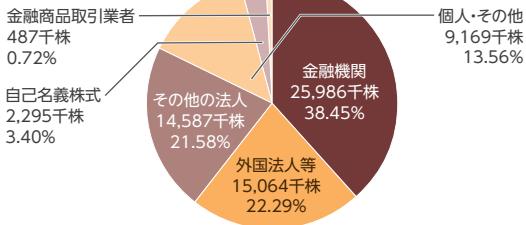
(注) 1.当社は、自己株式2,295千株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。  
2.持株比率は、自己株式2,295千株を控除して計算しております。

#### 4.株式分布状況

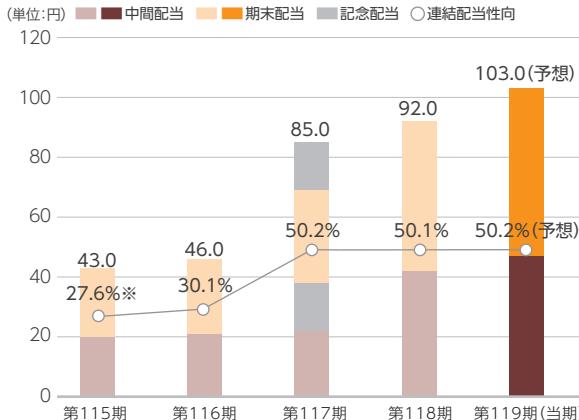
##### 【所有株数別】



##### 【所有者別】

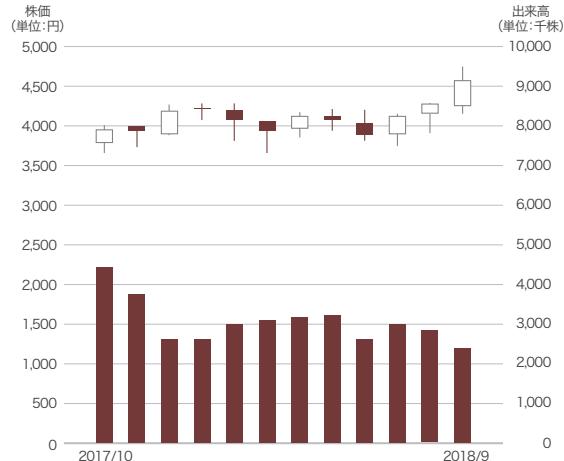


### 配当金の推移



※第115期において親会社株主に帰属する当期純利益から事業譲渡益を除外して算出した場合の連結配当性向は30.2%となります。

### 株価・売買出来高の推移 (東京証券取引所)



事業年度 4月1日～翌年3月31日  
基準日 定時株主総会 3月31日

期末配当 3月31日  
中間配当 9月30日

定時株主総会 毎年6月

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料)  
〈郵送先〉〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部  
名古屋証券取引所市場第一部

公告の方法 電子公告により行います。公告掲載URL <http://www.aica.co.jp/>  
(ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。)

### 〈ご注意〉

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に口座をお持ちの株主様の各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

## 株式に関するお手続きについて

### ●特別口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
<ul style="list-style-type: none"> <li>特別口座から一般口座への振替請求</li> <li>単元未満株式の買取（買増）請求</li> <li>住所・氏名等のご変更</li> <li>特別口座の残高照会</li> <li>配当金の受領方法の指定（※）</li> </ul>	特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料) 〈郵送先〉〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
<ul style="list-style-type: none"> <li>郵送物等の発送と返戻に関するご照会</li> <li>支払期間経過後の配当金に関するご照会</li> <li>株式事務に関する一般的なお問合せ</li> </ul>	株主名簿管理人	<b>手続き書類のご請求方法</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●証券代行部テレホンセンター 電話 0120-232-711</li> <li>●インターネットによるダウンロード <a href="https://www.tr.mufj.jp/daikou/">https://www.tr.mufj.jp/daikou/</a></li> </ul>

※特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

### ●証券会社等の口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
<ul style="list-style-type: none"> <li>郵送物等の発送と返戻に関するご照会</li> <li>支払期間経過後の配当金に関するご照会</li> <li>株式事務に関する一般的なお問合せ</li> </ul>	株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料) 〈郵送先〉〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等	にお問合せください。

# AICA

化学とデザインで面白いこと

